

## 【中高生の部】

## 【前田純孝賞】

ペン一本言いたい言葉が多すぎてくしゃくしゃになった私の思い

大阪府立夕陽丘高等学校 一年 廣岡 咲

## 【選評 佐佐木頼綱】

思春期の気持ちの複雑さ、それを表現することの困難さを描いた一首です。初句「ペン一本」からは表現を試みる気迫が伝わってきます。下の句の「くしゃくしゃ」からは作者の混乱する感情が伝わってきました。景としては何度も鉛筆で書き、消しゴムで消して皺がついた原稿用紙を想像しました。言葉を尽くしても書き表せないものは多くあります。しかしくしゃくしゃになる程の過程を経て、作品は思いを宿し、思いも成長してゆくのでしょうか。

僕以外いない世界に石投げるとぶんと音して後は静寂

山口県山口大学教育学部附属光中学校 二年 熊本 笙太郎

## 【選評 佐佐木頼綱】

自分以外に誰もいない水場で石を投げ、水音の後の静寂を描いている一首です。下の句「どぶんと音して後は静寂」は字余りで、歌の言葉としても少し粗いのですが、作者の感じている寂寥感や孤独感を強く引き出しています。作者は石を投げながら存在していることの意味や価値といった大きな問に悩んでいるのかもしれませんが。孤独を感じているのかもしれませんが。しかし同時に情熱や力強さも強く伝わってきました。

## 【準前田純孝賞】

吸い込んできた潮風が帰路に就くわたしの中でまだ鳴っている

埼玉県立熊谷女子高等学校 二年 深野 長月瑠

青空に雲と桜を重ねたら紫陽花色に染まるパレット

大阪府大阪桐蔭高等学校 一年 大本 茉弥

風のようにたすきをつなぐあの子供次の子供は追いかぜのよう

兵庫県新温泉町立浜坂中学校 三年 清水 瑛次

意地悪な時計の針が嫉妬して二人の時間連れ去っていく

岡山県玉野市立玉中学校 二年 伊東 彩夏

## 【選者賞】

一本のトルコギキョウは舞台立ち華麗に踊るバレリーナのように

長野県上伊那農業高等学校 三年 佐藤 あかり

川のぞき赤色の橋うつってるすきとおってる輝いている

岐阜県加茂郡川辺町立川辺中学校 二年 荒川 梨々夏

しんしんと二人で歩く帰り道りんごの頬にとけた白雪

大阪府立今宮工科高等学校 二年 伊藤 日和

めくられる布団が放つ寒気浴び小さな夢が今日に変わる

大阪府立夕陽丘高等学校 二年 大浦 佐玖

子どもらの声ひびきたる夏祭りちようちんの灯が夜空にゆれる

兵庫県新温泉町立夢が丘中学校 二年 福井 琉香

## 【新温泉町長賞】

窓ぎわの席だからこそ気づくのだ毎日変わる木々の顔色

神奈川県横浜市立早渕中学校 二年 藤田 七望

頭出し濃い色をした人参は土の香りと濃厚な味

長野県上伊那農業高等学校 三年 宮原 侑生

色あせた横断歩道の赤ボタン押された分だけ物語あり

岐阜県加茂郡川辺町立川辺中学校 二年 小田垣 理子

風にのり木々のすきまを通りぬけ私の鼻にとまる秋風

岐阜県中津川市立第二中学校 三年 原 結愛

いもむしの道路横断見届けて受験生たる背をぴんと張る

愛知県立旭丘高等学校 三年 渡邊 美愛

夕暮れのちようちん明り照らされて空に響かす太鼓の音色

大阪府立今宮工科高等学校 二年 土井 唯香

一直線得点めざしすべりこむ土ぼこり舞う夏のグラウンド

兵庫県新温泉町立夢が丘中学校 二年 山本 悠陽

寒い冬腕の中で抱きしめた小さくふるえる一つの命

兵庫県宝塚市立安倉中学校 二年 小林 彩香

夏休みいここ集まり昼ごはんいそがしいわと祖母うれしそう

兵庫県三木市立自由が丘中学校 一年 石田 帆夏

よっこらせせよっこらせよっこいしよみるたびちぢむ祖母の背中は

兵庫県立浜坂高等学校 三年 田中 遥斗

### 【教育長賞】

虫発見ごめんごめんと払い取る虫が居た日のトマトは甘い

長野県上伊那農業高等学校 三年 伊藤 凜翔

弟が今日も元気に学校へ夏に溶け込むランドセルの青

岐阜県加茂郡川辺町立川辺中学校 二年 堀井 咲来

夏の海ゆらりゆらりと海男遠海眺め波来いと待つ

愛知県立名古屋壘学校 二年 松山 正徳

葉が落ちてすき間ができた木々たちは冷たい風をぎゅつとこらえる

大阪府立市岡高等学校 一年 玉手 乃愛

助走して空に向かって高く跳び砂場とびこむ虹を描いて

大阪府立市岡高等学校 一年 西岡 和希

夕焼けに照らされ染まる水面は私が泳ぐ青春の舞台

大阪府立夕陽丘高等学校 一年 西岡 柚

薫風の吹きぬけていく校庭に私も負けじと駆けぬけていく

兵庫県三田市立狭間中学校 二年 志水 杏吏

授業中耳をすませばカタカタおどるシャーペンとおてんばなイス

兵庫県新温泉町立浜坂中学校 三年 正田 花帆

一音に込めた思いを奏でては心が躍るホール揺らして

兵庫県新温泉町立夢が丘中学校 二年 長谷川 栞帆

クリスマス途中で買われたコンビニ傘きゅうくつそうに二人を守る

兵庫県立伊丹北高等学校 一年 辰己 椋

### 【神戸新聞社賞】

曇天を切開すれば水色の血が溢れ出て廃ビルに落ちる

福島県立磐城高等学校 二年 坂本 佳樹

コロナ禍でなかなか見れないマスク下早く見たいな笑顔の君を

「冬すみれ咲いていたぞ」と父と行く寝惚け眼に染みる紫  
長野県松商学園高等学校 二年 藤岡 弓姫

ドキドキの顔合わせでの「よろしくね」よそよそしさがまぶしき君よ  
愛知県立幸田高等学校 一年 木原 佑輔

月一回父の帰宅に盛り上がるおかずが増えたその日の夕食  
愛知県立名古屋聾学校 一年 櫻井 希光

おいしいと微笑む君にみとれてた真夏の暑さにとけゆくアイス  
大阪府立夕陽丘高等学校 一年 櫻井 理菜

鎮まらない熱をちからにかき鳴らす大阪梅田の夜路上で  
兵庫県立伊丹北高等学校 二年 藤原 美央

「何したい？」問いかけた父母のその目には怯える私と伝える私  
兵庫県立伊丹北高等学校 一年 今津 咲乃

楽しげな子らの声に誘われて「シャツ一枚海に飛び込む  
兵庫県立大学附属中学校 一年 中井 優里

風を切りはじける地面駆ける馬夏の青空響く足音  
広島県西条農業高等学校 二年 工藤 容子

もう少し甘えられたい電話ごしいつも見せないかわい姿  
岩手県立一戸高等学校 二年 中江 潤

校庭に木枯らし抜けて活きの良いサッカーボールを飼いならす午後  
茨城県立水戸第一高等学校 三年 佐藤 あいる

空あおぐひまわり畑真ん中にぽつんと咲いた麦わらぼうし  
茨城県立水戸第三高等学校 一年 小田 麻祐子

悠々と泳ぐジンベイザメの目に映る私のちっぽけなこと  
埼玉県立熊谷女子高等学校 二年 柳橋 里音

シャーペンの芯折れるまでそばにいて学級日誌にねこ描きながら  
東京都N 高等学校 一年 磯海 未来

朝冷えの教室一番乗りで着く二番目の子を持つ胸の音  
東京都武蔵野大学附属千代田高等学院 二年 和賀 文香

こめかみを伝った涙仰向けで空のどこかに探した答え  
神奈川県慶應義塾湘南藤沢高等部 三年 信田 龍之介

寒い日も手袋無しで会いに行く君の温もり感じたいから  
石川県立鶴来高等学校 二年 石川 胡桃

採りたてを食べさせたくて早歩き満員電車桃と帰宅す  
長野県上伊那農業高等学校 三年 中川 百華

あと一步仲間に託すバトンプス三年間のすべてを懸けて  
長野県松商学園高等学校 二年 平澤 舞咲

何事も終わりは意外とあつけない過程の日々は悩みが多い  
長野県松商学園高等学校 二年 岩井 琉菜

数年後再会したら気付くかなマスク顔しか知らない友は  
長野県松商学園高等学校 二年 青柳 陽大

父の手が大きくふくれるなぜだろう広げてみたら旬のくり  
長野県松商学園高等学校 二年 野村 愛夏

恵那山が三度白くなりければこの町の地に雪ぞ降りける  
岐阜県加茂郡川辺町立川辺中学校 三年 長島 空史

山の際赤く染まった空にある昼と夜とが混ざり合う時  
岐阜県中津川市立第二中学校 三年 勝川 菜々子

愛知県立豊橋西高等学校 一年 山口 詩織

からあげが衣サクサク揚がってる僕の心もウキウキ上がる

愛知県立港特別支援学校 二年 大宮 陸

大ホール輝く照明その下で銀色輝けトランプペット 三重県桑名市立成徳中学校 二年 杉本 七海

何度も見るあなたの背中でもいつか正面から見る仲になりたい

滋賀県立彦根翔西館高等学校 三年 長田 遥香

眠気にも上り坂にも負けないぞベダル踏みだす午前七時

大阪府立市岡高等学校 一年 仲島 朱織

真夏日のじりじり照らす太陽と開かない踏切じつところえる

大阪府立今宮工科高等学校 二年 村上 凜音

教室が妙な静けさ放つ時自信あるのにじとりと冷える

大阪府立今宮工科高等学校 二年 和田 直也

冷える朝テレビに映る軍隊と実感のない戦争の二文字

大阪府立東住吉総合高等学校 一年 眞喜志 梅乃

かちやかちやと楽しそうな音ひびいてるキッチンからは夕食の香り

大阪府立東住吉総合高等学校 二年 冷水 星来

ありがとう愛を受けとり無で返す愛を知らない A I の私

大阪府立夕陽丘高等学校 二年 牧田 蒼平

日曜日なにもしない日それも良い携帯しまいあくびを二回

大阪府立夕陽丘高等学校 二年 宮内 成美

忘れ物取りに帰った教室はいつもと変わったさみしい場所に

大阪府立夕陽丘高等学校 一年 川本 美耶

メイクして遊びに行った都会へとその時感じたためっちゃ J K

大阪府立夕陽丘高等学校 一年 北野 莉子

試合後にどこ行くどこ行くご飯屋さんご飯は三杯お腹はいっぱい

大阪府立夕陽丘高等学校 一年 田口 朝陽

忙しなく動き回る母見ると小柄な背中大きいような

大阪府立夕陽丘高等学校 一年 伊藤 恭子

冷たい手頬に温度を求めては帰らぬ人との別れを惜しむ

大阪府立夕陽丘高等学校 一年 岩田 栞奈

祖母の手を死までにぎれず二年前泣く母親の手もにぎれず

兵庫県神戸市立星陵台中学校 二年 森 実優

ペアの子はいつもはヘラヘラしてるけど試合になると猛獣になる

兵庫県三田市立長坂中学校 二年 洗川 虎雅

強敵に試合で勝って強敵と仲良くなってテニスの仲間

兵庫県三田市立狭間中学校 二年 久須見 煌生

かじかむ手スコップを握り雪をかくこぼれたぐちも雪にうもれた

兵庫県新温泉町立浜坂中学校 三年 濱田 琉士

バラバラのピースを一つに組み合わせパズルはどこか僕らに似てる

兵庫県新温泉町立浜坂中学校 三年 松岡 沙希

君の目に映る私はただの人私に映る特別な君

兵庫県丹波篠山市立丹南中学校 二年 酒井 姫咲

愛犬の頭に顔を押しつけて臭気も全て元気の源

兵庫県三木市立自由が丘中学校 一年 鈴木 陽葵

茜さす光流れる一両車タタンと揺れる夢への始発

兵庫県立有馬高等学校 三年 今井 絢子

さしだしたひとさし指を握るのは乳の匂ひの赤子なりけり

兵庫県立伊丹北高等学校 一年 山本 愛香

もう半年写真は全部捨てたのになぜだか消えない心のアルバム

兵庫県立伊丹北高等学校 一年 黒岡 亮太

校舎裏はちぎれそうな心臓とミンミンゼミと僕の告白 兵庫県立伊丹北高等学校 二年 中出 亜寿  
わが恋はいつになっても始まらぬ準備はどうに出来ているのに

あつ八重歯はじめましての友の顔自撮り画面で縮まった距離 兵庫県立伊丹北高等学校 二年 吉賀 美羽

貴方にねふまれるアリにもしつとする貴方の顔見れず足元を見る私 兵庫県立西宮高等学校 三年 前羽 海南

ジャージさえ脱げず車内で揺られてる私のラケット今日も寝たきり 兵庫県立浜坂高等学校 二年 宮本 望愛

岡山県玉野市立玉中学校 二年 石川 結己

白壁の街みて想う幼き日変わる私と変わらない街

満月の照らすその先我が友が小さくなりつつ手を振りたり 山口県山口大学教育学部附属光中学校 二年 久角 詩織

「また明日」茜色の空の下いつもの笑顔いつもの約束 徳島県立阿波高等学校 一年 影山 真慈

深呼吸どこかに咲いた金木犀風といっしょに鼻をくすぐる 長崎県松浦市立御厨中学校 二年 長谷 愛凜

亡き人を見つめたあとの彼岸花寂しさ抱み見守る紅さ 大分県竹田市立直入中学校 二年 田北 笑

ワシントン日本語学校 高二 カルボスキ―由莉香